



◆小寺 光信 議員

コロナの絆プランへの影響は

町長 計画目標指数の多くに影響

第五次総・後期基本計画への新型コロナ禍による影響は平常時と同様に施策展開できているとは言い難い。

問 第五次総合計画・後期基本計画の77の目標指標のうち2020年度の新型コロナ禍による影響事業は。

答 【基盤】で8事業、【安全・安全なまち【暮らし】で21事業、地域経営の推進で4事業の合計33事業で、42・8%の影響がある。

問 第六次総合計画に向けて、第五次総では新型コロナ禍の影響で当初目標を2020年度としていたものは実年実績の2019年度数値の使用を。

答 2020年度の実績値は新型コロナ禍の影響を受ける可能性が高いことから2019年度の実績値を集計中ではあるが、今後の策定作業の中で使用していく。



第五次総合計画・後期基本計画

養老町の教育の概要は

教育長 学校経営・歴史文化等で実施

養老町教育委員会編集の令和2年度養老町の教育の冊子により方針・概要の状況を発信している。

問 学校経営では誰もが実感できる教育を進める施策は。

答 就学前教育では保育園・認定こども園教育・保育指導の方針と重点を作成し、ひとりひとりが輝く教育の具現に取り組んでいる。小中学校では、人権教育の充実、授業の充実、ふるさと学習の推進に積極的に努めている。

問 千人塚一号古墳の調査・保護は。

答 昨年度からの調査により全長35mの町内最大の円墳で埴輪が初めて出土。町の重要な文化財として指定を含めた保護を検討する。

問 押越地区の旧家の古文書調査状況は。

答 聞き取り調査による整理が概ね完了し目録作成を目指し、資料の内容確認を行っている。



養老町の教育



◆大橋 三男 議員

防災拠点の活用はいつ

町長 計画変更により数年後の見通し

防災拠点は、現在も全国に起きている台風や集中豪雨・地震の災害時には必要不可欠な施設であり、一日も早い完成を望む施設である。

問 防災拠点が完成し、活用出来るのはいつなのか。また今緊急時の臨時活用は可能か。

答 施設は計画の見直しにより約1年間の沈下状況確認を行い、その後段階などの附帯工事が行われる。緊急避難での利用は可能である。

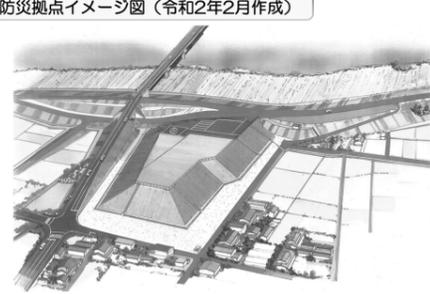
問 完成時の管理体制や、使用規則等マニュアルの作成と開示は。

答 当防災拠点は災害時に使用する土砂等の備蓄基地である。避難所等の指定や管理体制、使用規則は、今後、国との協議を行い決定していく。

問 町名義の土地に、町対応の建設物や設置物の予定は。

答 水防倉庫の予定が不要となった為、建設物等の予定はない。

国土交通省 本巻川上流河川事務所 牧田川出張所



防災拠点の鳥かん図

学校関係のコロナ対策は

教育長 児童負担軽減の施策を施した

県内では、各務原市が遠距離通学の生徒を市バスで送迎やクールタオルを配布、本巣市がノーランドセル通学を実施している。当町の対策は。

問 徒歩で通学する児童達の特に暑さ対策の状況は。

答 暑さ熱中症対策として16時以降の下校、シエルメットを通常の帽子に。またカバンの中身を減らし軽量化。マスクの着用の軽減策。下校時に水筒の補給やグランド集合下校を避け、校舎からの直接下校等実施した。

問 特に遠距離通学児童においては、年間を通じてコロナ対策や安全対策が必要と思われるが、対策は。

答 通学路の安全確保は、安全・安心に重要な要件である、コミュニティスクールやスクールサポーターの協力により、登下校を見守り頂きながら、学校も通学路の点検をし、危険箇所のチェックや定期的に登校指導・下校指導を実施している。



遠距離で水路沿いを通う児童